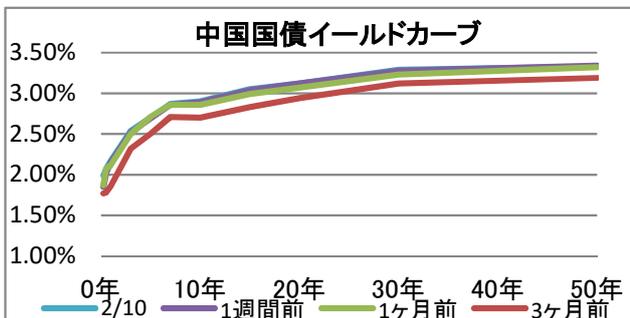
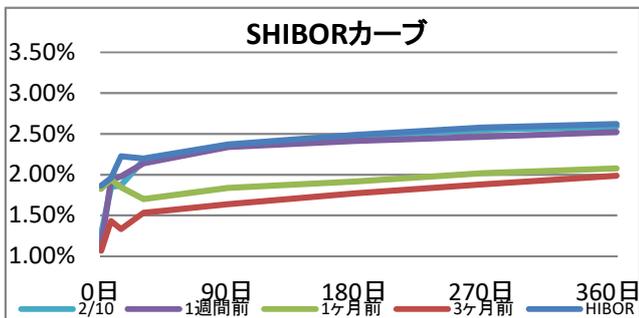


基準レート		2023/2/10	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	6.7884	+0.0502
	JPY/CNY	5.1636	-0.0712
SHIBOR	3M	2.3710%	+0.0140%
国債利回り	10年	2.90%	+0.01%
上海総合指数		3,260.37	-3.04



(1) 概況

国際金融市場では、金融当局者のタカ派発言を受けて金融引締め長期化懸念が高まり、債券利回りが上昇し、株式市場は上値の重い展開となり、外為市場でもドルが買い戻されやすい状況となった。

中国金融市場では、株式市場が景気回復期待や政府高官の景気支援発言等の好材料がある一方で米中関係悪化懸念から上値の重い展開となり、債券市場では景気回復期待や資金需給悪化による調整が懸念されたが中国人民銀行の積極的な資金供給等により安定を維持し、外為市場でも対ドルで週初の7.80台から中国の景気回復期待により上値を切り下げる展開。

中国では、習主席が、経済の全体的な改善、企業の信頼強化、期待の安定に努める方針を示し、李総理は、1月の顕著な消費増加等による経済回復を政策パッケージ実施等により強固なものにしていくと強調。国務院は質の高い経済成長を目指す「品質強国建設大綱」を公表し、中国人民銀行は、金融持株会社の経営安定促進と金融リスク防止を目的とした「金融持株会社関連取引管理法」を、また銀保監会と連名で、商業銀行の信用リスク評価の正確性を高める「商業銀行の金融資産リスク分類法」を制定。証監会は、債券発行登録制度に向けた改革等を進める方針を示し、モルガンスタンレー傘下の中国ファンド会社の出資100%拡大を認可（7社目の外資系独資ファンド）。この間、IMFは中国向け年次報告で「マクロ経済政策の時期尚早な引き締めを避け、不動産への国家レベルの追加措置等を含む構造調整・改革に取り組むべき」と主張。米中関係では、偵察気球撃墜後、中国政府が報復を示唆しつつ国防トップ間の電話会談を拒否し、米政府による中国企業の最新技術開発に関する規制強化の報道もあり、米中対立の更なる激化が懸念されている。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日12,380億元に対して、新規リバースオペ18,400億元を実施し、ネットで6,020億元を供給。

(3) 主な経済指標

- ・CPI (1月) は、前年比+2.1% (12月、同+1.8%) と2か月連続で上昇幅を拡大。住宅賃貸は引続き前年割れとなったが、ゼロコロナ政策緩和や春節休暇 (前年は2月) の影響から、食品 (前年比+4.7%) が野菜や果物を中心に上昇したほか、旅行が2桁の上昇 (同+11.2%) となる等、娯楽・サービス価格も上昇。コアCPI (除く食品・エネルギー価格) も前年比+1.0% (12月、同+0.7%) と、上昇幅を拡大した。
- ・PPI (1月) は、前年比-0.8% (12月、同-0.7%) とマイナス幅を若干拡大。消費財価格は前年比プラスを維持しているが、生産財価格は原材料価格の低下や不動産市場低迷等による鉄鋼価格等の下落から前年割れが続いている。
- ・人民元貸出増加額 (1月) は、4.9兆元 (前年同期比+9,227億元) と過去最高の増加額となった。

② 資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	1.8650%	1.8650%	1.7000%	
1W	1.9610%	1.7500%	1.9500%	
2W	2.2260%	2.2500%	1.9500%	2.0000%
1M	2.1980%	2.5500%	5.0000%	2.1700%
3M	2.3710%	2.5000%	7.0000%	2.4000%
6M	2.4870%	3.1500%	2.4800%	2.5000%
9M	2.5790%	2.9200%		2.5800%
12M	2.6210%	3.6000%		2.6200%

週初は需給悪化の影響が見られたものの、資金需要の拡大に応じる格好で中国人民銀行が資金供給を大幅に増加させたことを受けて安定を取り戻している。ターム物は1ヶ月の2.5%前後での取引を除き、出合いは限定的。

NCDの金利水準も安定しており、ターム物は1ヶ月が2.1%台後半、3ヶ月2.4%前後、6ヶ月が2.5%前後、1年が2.6%台で取引されている。

(2) 米ドル資金 (本国内)

	BID	OFFER
ON	4.55%	4.56%
1W	4.57%	4.60%
1M	4.65%	4.70%
3M	4.95%	5.05%
6M	5.10%	5.20%
12M	5.20%	5.40%

米FOMC後のパウエル議長の発言はハト派的と受け止められたものの、その後の高官発言から金融引締め長期化を懸念する動きが強まり、インフレ指標を控えていることもあってやや様子見となった。ターム物は、1ヶ月が4.6%台、3ヶ月は4.9%台で取引されている。

### ③ 人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	1.85%		2.41%	2.45%	2.86%
6M	2.01%		2.52%	2.55%	2.96%
1Y	2.15%	2.16%	2.62%	2.71%	3.20%
3Y	2.52%	2.64%	2.83%	3.23%	3.91%
5Y	2.69%	2.82%	3.08%	3.51%	4.28%
10Y	2.89%	3.07%	3.39%	3.68%	4.51%

債券市場では、欧米での債券利回り上昇や国内短期資金市場での資金需給悪化による金利上昇が債券市場の上値を重くしていたものの、中国人民銀行の積極的な資金供給と投資家の様子見姿勢により安定を維持している。米国ではインフレ指標の発表を控えてFRB高官のタカ派発言に反応する格好で債券利回りが一段と上昇し、10年米国国債（3.73%、前週比+21bp）の10年中国国債（2.90%、同+1bp）の利回り上回り幅は+83BP（同+20bp）と大幅に拡大している。

イールドカーブは、中国人民銀行の積極的な資金供給により短期が低下傾向となる中、中長期では欧米市場の影響や国内景気回復期待もあって上昇圧力が高まり、ややスティーピングしている。クレジットスプレッドは中期を中心に拡大している。

### ④ 先物為替市場

	USD / CNY
1M	-127.0 / -126.0
3M	-425.0 / -420.0
6M	-869.0 / -855.0
9M	-1298.0 / -1290.0
12M	-1685.0 / -1675.0

対ドル基準レートは6.7884と前週末比+502pipsのドル高元安、対円基準レートは5.1636と同-712pipsの円安元高と、市場でのドル高を受けた設定となっている。中国国内市場では、米国の金融引締め減速期待の後退によるドル高基調から7.80台で始まったものの、中国国内景気回復期待による元買いが上値を抑える格好となり、方向感のない狭いレンジ取引に終始した。

先物は、米国金融引締め政策の長期化懸念からディスカウント幅は拡大に転じており、1年物は週初の-1400台半ばから-1600台後半に拡大している。

### ⑤ 金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	2.13%		1.79%
6M	2.16%	2.45%	1.81%
9M	2.22%	2.52%	1.85%
1Y	2.28%	2.59%	1.95%
3Y	2.64%	2.99%	2.05%
5Y	2.86%	3.27%	
7Y	3.01%	3.45%	
10Y	3.15%	3.59%	

スワップ金利は、債券市場での利回り上昇を受けて小幅ながら上昇しており、債券利回りとの金利差であるスワップスプレッドもやや拡大。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入